令和５年定例１２月会議一般質問

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 質問者 | 質問事項及び要旨 | 質問の  相手 |
| 橋本　武士 | **ゴミ分別作業員の設置**  家庭でのゴミの分別作業の負担軽減のために、ゴミ分別作業員を設置できないか伺う。 | 町　長 |
| **海に関連する資格取得の支援について**  小値賀町の周囲を海に囲まれていることを生かし、町内の　１６歳から１８歳の子供たちを対象として、海と関係が強い船舶２種免許とスキューバダイビングライセンスの取得を促し、その費用を町が支援することで、子供たちが地元の魅力を知るための教育として、また、小値賀町独自の教育カリキュラムとして有効であると考えるが、町長及び教育長の考えを伺う。 | 町　長  教育長 |
| 森岡　正雄 | **ジェンダーギャップ（男女間格差）と男女共同参画に**  **ついて**  昨今、ジェンダーギャップ・男女共同参画という言葉がテレビや新聞などのメディアに取り上げられることが多くなり、この言葉を知らない人はいないと言えるまでになった。同時に男女共同参画の取り組みが国主導で進められ、莫大な国家予算が投じられている。ジェンダーギャップには様々な視点の評価があるにもかかわらず、メディアでは一方の評価のみが取り上げられ、多くの町民がこの問題の本質を知らずにいる。そんな状況の中、強引に推し進められている現状に疑問と不安を覚え、今回質問することにした。  そもそもジェンダーギャップとは何なのか、男女共同参画の目的とは何なのか、町長の考えを質したいと考え、以下の４点を質問する。   1. 町長の考えるジェンダーギャップとは 2. 男女共同参画を推進した結果、世の中はどう変わるか。 3. 役場職員に性別を理由とした賃金の格差はあるか。 4. 役場職員の人事において、女性であることを理由として昇進できないなどの障壁はあるか。 | 町　長 |
| 今田　光弘 | **こどもの教育機会の確保について**  少子高齢化、人口減少の波に抗うためには教育環境の整備が重要で、結果が出るには時間がかかるからこそ早急に全力で取り組む必要がある。  特に高校の存続問題に関して、教育長は今まで議会を通じてその取り組みについて熱く語り、町民への説明責任を果たしてきたものの、町全体が危機意識を共有するところまでは至っていないように感じる。  今までの質問と答弁を振り返りつつ、あらためて教育長の考えを伺いたい。   1. 小中高一貫教育に関して   ・子どもたちの学びに向かう姿勢や教職員が子どもたちに寄り添う姿を地域の人に知らせる方法は。  ・教職員の負担が大きくなり、働き方改革の流れに逆行してはいないか。   1. 高校の魅力化に関して   ・県の求める「高校の活性化策およびこれを踏まえた学校のあり方」について知りたい。  ・キーワードである「地域探求」をカリキュラムとしてどのように取り込もうとしているか。  ・存続させるために北松西高校を町へ移管する研究を進めているか。   1. 離島留学制度について   ・児童生徒を呼び込むための本町らしさが具体的に伝わる教育目標は何か。  ・親子留学や祖父母の家から登校する孫戻し留学制度も導入すべきではないか。  ・留学生確保のため、入寮型は高校生に限るという考え方も検討してはどうか。 | 教育長 |
| 立石　光助 | **長期にわたってインフラが停止した場合の備えに**  **ついて**  高度経済成長期に整備された電力網や上下水道はこれから更新の時期を迎え、人口減少に歯止めが利かない地方においては、老朽化したインフラの更新にかかる費用の回収が困難なため赤字となり、財政的に維持が難しくなると問題視され、本町も例外ではありません。  また、環境負荷の小さいエネルギーにシフトする必要があることは言わずもがなであり、本分野では「分散型」「小規模」「地方」に注目が集まっており、東京都利島村や愛媛県の過疎地では小規模分散型水循環システムの実証試験が開始されたり、八ヶ岳や静岡県の西伊豆では電気も水もガスも接続していない、エネルギーや水を自給するオフグリット建築が広まったりしています。  さらに、激甚化する自然災害などにより電力や上下水道などのインフラが長期間停止した場合、本町の住民のほとんどの方の生活が成り立たなくなってしまうと予想されます。  以上を踏まえ、自然災害等により長期間インフラが停止した場合でも最低限の避難生活を送ることができるよう、まずは地域の避難所となりうる住民センター等に独立した水の給排水や熱源・最低限の電力を小規模分散型に備えることで、将来財政的に更新が難しくなるインフラの代替として機能させ、持続可能な暮らしが実現できると考えるが、町長のお考えを伺う。 | 町　長 |
| 小辻隆治郎 | **県立北松西高校の存続に向けて**  北松西高生の入学者減については、かねてより深刻な問題とされており西高存続にかかわるまでに至っている。  小中高一貫、ふるさと留学制度に関わらずいまだに低迷状況だ。打開の道はどうなのか。   1. 存続困難と判断された場合に、町としてのデメリットは何か。教育長に伺います。 2. 北松西高在校生が現在２０人に対して、似たような状況下にある島根県海士町の島前高校では令和４年現在１６８名で、その３分の２の１１０名が島外からの入学者であるが、この差はどこから来るのか。教育長に伺います。 3. 町執行部としても、教育には最大限に配慮するとの発言もある。町政策として中核的な位置づけで取り組む覚悟があるのかどうか、町長に伺います。 | 教育長  町　長 |
| **主として笛吹本通り商店街について**  笛吹本通り商店街も後継者難、商品の域外購入、SNS等が原因で空き店舗が目立つようになった。  一方で有人国境離島交付金による事業で店舗数が増えていることは喜ばしいこととは思うが、底力に乏しい、何故か。   1. 笛吹本通りの空き店舗が増えつつあることに対し感想、どういう対策を考えておられるか。 2. いま、過疎化がすすむ地方では街おこしが盛んに議論され、成功事例も多数見受けられる。地元の有志と外部の若い学生や人材とで町の指針を創るための協議会を発足させることも必要ではないか。   ③　観光で小値賀に来島した観光客は８割がたが感動したと言  っている。それだけ小値賀は潜在的な魅力がある。観光を町　の起爆剤として活性化していくためには、町内の若い人材を中心に、ひいては島の若手全体で盛り上げていくことが大事だと思う。笛吹本通りの開発はその一歩と考えるが、意見を伺います。 | 町　長 |
| 江川　春朝 | **診療所医師について及び医療・介護人材、人手について**  ・本町診療所は、医師によって診療患者数に偏りがあるようだが、何が原因か把握はしているか。  ・常勤医師２名体制に向けての、明るい見通しがあるようだがその進捗状況の説明。  ・高齢社会の本町では、多くの町民が、医療や介護が必要になってきている。今後ますますこの分野の需要が増えると見込まれるが本町の医療・介護の人材、人手は充分か。  老後や病気、今後の島での生活に不安を感じている町民は非常に多いので、町長の見解を伺う。 | 町　長 |
| **公園の利活用について**  本町には景色の綺麗な園地や、ちょっとした遊具のある公園はあるが、昔、赤浜公園に設置していたような、しっかりと体を使って遊ぶことの出来るアスレチックがない。  いくら少子化だからと言っても、今の子供達、これから産まれて来てくれる子供達の為に、純粋に楽しんでよろこんでもらうことも、島の子育て環境の魅力アップの観点からも大切だと思う。そこで、アクセスもしやすく、無駄に広さだけある前浜公園をもっと活用してはどうか。 | 町　長 |
| 横山　弘藏 | **空き家対策について**   1. 空き家がもたらす周囲への悪影響をいかに最小限にとどめるかは、喫緊の課題と思われる。景観や衛生、防災面でも地域に深刻な影響を及ぼす空き家の問題をどのように考えているのか町長の見解を伺う。 2. 国も空き家対策に苦慮している。１９９８年には１８２万戸、２０３０年には４７０万戸と見込まれている。除去等の促進はもちろん悪影響を及ぼす前の有効活用など適切な管理を総合的に強化する方針である。当町もあらゆる条例、規則、要綱をしっかり生かして取り組むべきと思う、現在の当町の空き家対策はどのような状況なのか。 3. 所有者の悩みは資金面など問題を抱えている。ある自治体では所有者の悩みに寄り添う空き家対策に取り組んでいる。所有者への訪問、面談等を行い直接悩みを聞き出しアドバイスするなど、管理を助言指導するより、所有者と一緒に考えることを大切にして効果を上げている。   当町もあらゆる事例を参考にして今度も増え続ける空き家問題を一つ一つ解決すべきではないか。 | 町　長 |
|  |  |  |